



# 事業縮小から拡大へ一転。 ロボット専用工場を増築して新事業へ

## 課題

### 一貫生産を目指す工場移転に 敷地確保と資金調達が必要

iCOM 技研株式会社は、創業当初、電気制御盤設計をおもに行い、その後は制御盤筐体販売、制御盤組み立て配線、機械配線作業へと事業を拡大してきた。だが、現状ではこれ以上の展望がないと、経営者は当初、自分一人でできる規模にまで事業の縮小を考えていた。そこで、加東市商工会は、経営革新セミナーの受講を勧めて経営革新計画を申請したが、革新性が不十分ということで差し戻しとなった。

その後、外注工程の不良率が高いことから、同社は一貫生産体制の金属加工メーカーを目指すことに。外注工程を内製化するには、既存の建屋では物理的に不可能だったため、経営者は、工場の移転を決断。そのため、工場の広大な敷地の確保と巨額の資金調達が必要だった。

## 支援

### 2度目の経営革新計画で 工場移転と新事業展開へ

差し戻しとなった経営革新計画を再検証するため、商工会は同社への巡回訪問を重ねた。徐々に経営者との距離が縮まり、決算書を見せてもらえるように。現状の把握、財務分析を行い、再度、経営革新計画を申請して承認を受けた。この経営革新計画の申請がターニングポイントとなり、事業縮小を考えていた経営者が一転、事業拡大へ舵を切る。

商工会では、3年連続のものづくり補助金の計画作成支援をはじめ、マル経融資による資金調達、兵庫県立工業技術センターや兵庫県立大学との橋渡しなどの支援を行った。

経営革新計画の承認後、経営者は金属加工メーカーとして事業展開するという夢が明確に。そして経営者から「一貫生産に対応できる物件探しと、その資金2億5000万円の調達を支援してほしい」と依頼を受ける。商工会では、経営指導員が情報共有して対応し、希望物件を見つけることができたが、資金調達は、費用対効果の検証から借り入れが多すぎると判断。経営者へのヒアリングを重ねて、借入金を1億5000万円まで圧縮した。

一方、経営者はロボットのプログラミング・ハンドリング設計に携わったことがあり、ロボットに関する知識をもつ。地域企業の人手不足を解消するため、協働ロボットを活用したロボットシステムを提案するロボットシステムインテグ



ドイツ・トルンプ社製のレーザーパンチ複合機

レーターとしての事業展開を目指し、準備を進めた。まずは、この分野の先駆者を一緒に訪問し、アドバイスを受け、その後、ものづくり補助金を視野に入れた事業計画を作成。補助金採択後、民間金融機関と日本政策金融公庫とで資金調達を行い、ロボット用の工場を増築した。

この結果、支援した5年で売り上げは169.7%増となった。一貫生産を目指して立ち上げた金属钣金加工部門だが、金属加工だけの依頼も増加し、導入設備の稼働状況も良好だ。

## 支援の経過

期間	支援内容
H25年6月～	ものづくり補助金の申請支援
10月～	経営革新計画の策定支援
H26年2月～	工場移転に向けた事業計画作成支援、 資金繰り・資金調達支援
H28年1月～	経営革新計画の策定支援
6月～	工場増築のための資金調達支援 (小規模事業者経営発達支援資金)

## 会社概要

会社名：iCOM技研株式会社  
 住所：兵庫県加東市東実347  
 電話番号：0794-70-8407  
 URL：https://www.icom-giken.com/  
 代表者名：代表取締役 山口知彦  
 創業年：平成15年  
 年間売上高：2億666万円 (平成29年)  
 従業員数：16名 (パート2名)  
 商工会名・担当者名：加東市商工会・柳隆之